令和 7 年度 河南町 全国学力・学習状況調査 結果概要

調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年

調査の目的

○ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
○ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
○ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

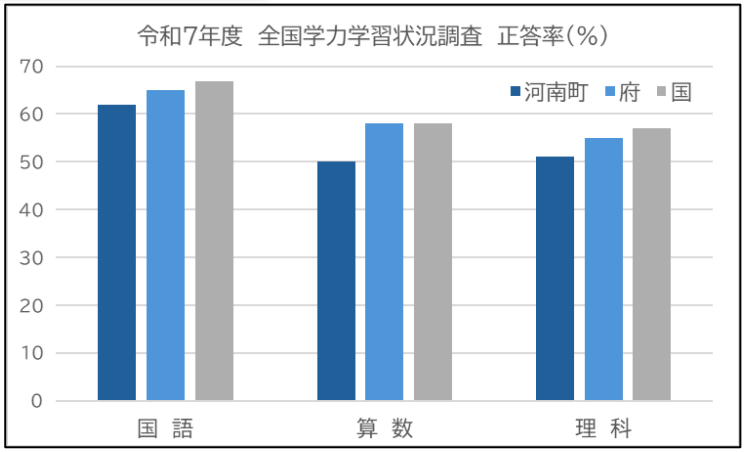
（文部科学省「令和7年度 全国学力・学習状況調査」調査の目的より）

調査内容

1 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科） ※ 中学校理科は、文部科学省 CBT システム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT：ComputerBasedTesting）で実施。
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

2 質問調査
① 児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
② 学校に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

町立小中学校の結果



小学校

令和7年度は、国語・算数・理科の3教科の調査となりました。すべての教科で、大阪府・全国の平均を下回る結果となりました。
ただし、国語において、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」で全国・府を上回る正答率となりました。

	河南町	大阪府	全 国
「言葉の特徴や使い方に関する事項」	77.0%	77.0%	76.9%
「我が国の言語文化に関する事項」	83.3%	80.3%	81.2%

問題形式別に見ると、例年課題となっていた「記述式」で一定の成果が見られたものの、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題では課題が残りました。
算数では、「Dデータの活用」では一定の成果が見られたものの、「C測定」「C変化と関係」では課題が残りました。記述問題においては例年課題が見られますが、「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題や「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では大阪府・全国の正答率に近づいてきました。
理科では、領域や問題形式によって、正答率に大きな違いが見られました。「電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる」問題（短答式）では、正答率が92.1%（大阪府75.9%、全国78.0%）と習熟の高さが見られました。これは実験での体験と知識がしっかりと結びついている結果だと考えられます。

中学校

町内1校のため正答率の公表はしません。国語は、大阪府・全国の平均を下回る結果となりました。数学は、全国の平均を下回りましたが大阪府の平均と同等となりました。理科はIRTスコアで算出されるため、単純に平均正答率での比較はできませんが、河南町の特徴としては大阪府・全国に比べて低位層が多いことが課題と言えます。
国語では、記述式の正答率で改善が見られました。一方、短答式で大阪府・全国との結果に大きな差があり、新たな課題として分析を進める必要があります。また、無回答率も大阪府・全国と比べて高いことが課題として挙げられます。
数学では「A数と式」領域で大阪府・全国を大きく上回りました。また「知識・技能」の観点においても、大阪府・全国を上回っており基礎・基本の定着が図られていることが分かります。

児童生徒質問紙について

全国・府と比べて肯定的回答の多かった質問について記載します。

小学校

「朝食を毎日食べていますか」
「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」
「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」
「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」
「読書は好きですか」
「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」
「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」
「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」
……他

中学校

「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか」
「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか」
「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」
「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」
「友達関係に満足していますか」
「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」
「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」
「あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思いますか」
「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」
「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」
……他

課題解決のために

(1)基礎・基本の定着が確実に行われるよう、個別最適化された学びの充実を図ります。
(2)話し合い活動等を多く取り入れ、児童・生徒が互いの意見や考えを高め合う協働的な学びの充実を図ります。
➡ 1人1台端末の更なる活用(AIドリル、共同編集作業など)
➡「指導の個別化」と「学習の個性化」
➡ 育成すべき資質・能力の3つの柱を意識した授業改善
(3)二小一中の公開授業を充実させ、各校の授業改善に取組みます。
➡ 町立小中学校の研究授業をすべて公開授業とする。
➡ 中学校におけるSE公開授業を小学校教員の悉皆研修と位置づけ、小中連携の意識の向上

より具体的な取組みとして

CHECK☑
☐ 令和6年度より教育長が掲げる「KANAN BEAM」をより深化させる。
☐ 令和7年度は、「学力向上」をキーワードに、河南町の教育をさらに「つなげる」。
☐ 各校が学力向上に係る取組みを焦点化するために全国学力・学習状況調査から**「あと一問」**を設定。
☐ **「あと一問」**が解けるようになるための授業改善をめざす。
※「あと一問」は特定の教科の特定の領域等の習熟をめざすのではなく、授業改善の視点としての位置づけ
☐ 近つ飛鳥小学校におけるSE推進事業の公開授業での視点に。そして、同日に開催される各校の学力向上に係る取組み説明会の視点に。
☐ 二小一中をスケールメリットとして捉え、町内の学力向上の底上げをめざす。